

タンネウシ



01月号

タンネウシはアイヌ語で「長い・木の・群生しているところ」。博物館付近の地名です

100平方メートル運動40周年記念特別展 「知床の森の秘密 — 人とクロテンとシテムシのつながり」

クロテンは森で死んだらどうなるのでしょうか？ 森の生き物たちの糞はだれが片づけているのでしょうか？ 人々は昔から知床の森で動物たちをどうやって捕まえ、どのように利用してきたのでしょうか？ 知床で失われてしまった動物とは？ この特別展では、人も含めて生き物たちのつながりの不思議をさぐり、知床の森にかくされたひみつをちょっとだけ紹介します。▶期間：平成30年1月19日(金)～3月11日(日)▶場所：交流記念館※特別展のみの観覧は無料

<主な展示物>

- ・遺跡から出土した動物骨や皮なめしに使った道具
- ・今回の特別展のためにアイヌの古老が制作した狩猟道具
- ・動物の死骸や糞が分解されて土にかえるまでのプロセスを実物標本、模型、動画で紹介
- ・知床の生態系すごろくに挑戦



水分とミネラルを得るために、ため糞に群がるチョウ

冬の星座観察会

冬の大きな三角形やふたご座、ぎょしゃ座など冬の代表的な星座やオリオン座の大星雲(M42)・プレデアス星団(M45)・アンドロメダ大星雲(M31)などを望遠鏡で観察します。19日が悪天候の場合は20日、21日と順延します。▶日時：1月19日(金)▶場所：博物館天体ドーム▶担当：合地



学芸員▶要申し込み▶参加費：無料▶暖かい服装でご参加ください。

収蔵庫から

収蔵庫の整理をしていると、子どもの頃(昭和30年代中頃～40年代)に見た風景に出会います。

たとえば三井農林のバターのカース。現在のアルプ美術館周辺にあった三井農林の工場には、帽子から長靴まで白尽くめの人たちが出勤していました。バス修理工場付近の井戸に水を汲みに行った母が、雪穴に足をとられ困っていたのを助けてくれたのは、そんな白尽くめの女性でした。その頃は、天秤棒を担いで水を運んでいた時代でした。

斜里の駅弁の器を見て思い出すのは、「とりそばろ弁当」です。家族旅行で車を利用した二三日だけ食べたのですが、ご飯に味がしみていて美味しかった。忘れられない味です。

タツタ口屋さんは、当時田中書店の隣にあったお菓子屋さんです。銘菓「くろがしら」をはじめ、なんでも美味しい店でした。なにより接客して

くれるお母さんがいつも笑顔で、子供にも大人の客と同じように接してくれる優しい人でした。

そんな思い出にひたっていると、肝心の作業はなかなかかどりません。(平清水)



今月の学芸員のイチオシ!



デジタルキャリパゲージ

0.02～25.00 mm までのモノの厚みを計測できる優れたもの。昨年、チャシコツ岬上遺跡で出土した話題の古銭を計測したのもこの機械です。キャリパーの小さな目盛りを読み取るのが辛いという方にオススメです。(平河内)

休館日 1月5日(金)までは年始休み。8日(祝・月)と翌9日(火)、15・22・29日(月)。

編集後記 「めでたさもちう位なりおらが春」一茶59歳の句。(ちう位は方言で、いい加減の意)まったく同感。今年もよろしく～(ひら)